

### 西胆振若い世代の喫煙・受動喫煙ゼロフォーラムから③

この地域では「オール室蘭」で、がん対策に取り組んでいる。「室蘭市がん対策推進条例」の対策を具体的に進めるため、2016年(平成28年)に「室蘭がんフォーラム」が発足した。

この数値に、がんフォーラムのメンバーは驚き、「何か対策が必要」との意見が寄せられた。フォーラムでは「受動喫煙の危険性を効果的、集

の授業」として、たばこの有害性や、肺がんで死亡率減少への取り組みを学ばせ、がん患者支援チャリティで行っている。「父がたばこを吸うと、受動喫煙となる母の肺がんリスク」の授業として、たばこの有害性や、肺がんで死亡率減少への取り組みを学ばせ、がん患者支援チャリティで行っている。「父がたばこを吸うと、受動喫煙となる母の肺がんリスク」の授業として、たばこの有害性や、肺がんで死亡率減少への取り組みを学ばせ、がん患者支援チャリティで行っている。

## 肺がん減へ対策必要

### 授業で小中学生に啓発

会合の中で、室蘭・登別両市は肺がんの死亡率が高いことが示された。喫煙率と相関性が高いため、第3回の会合(16年6月)では「喫煙・分煙対策」を議論した。

この中で、室蘭市健康推進課からは、母親は妊娠中に15%程度たばこを吸い、生後4カ月を迎えると24.1%吸っている。父親は新生児期で48.7%、生後4カ月経過すると56.7%などのデータが示された。

中的に報道する「『喫煙と肺がん』に関する市民公開講座を開く」と決めて実施している。小中学生への啓発は、がん教育で「たばこの害を織り込んだ形。西胆振管内の小中学校で、道や各自自治体、室蘭市医師会主催で行っている。中学校でのがん教育では「がん

クは2倍になる。だから、帰ったら、家族に禁煙を進めて」とも訴えている。また、室蘭がんフォーラムの第13回会合(18年3月)では「地域で取り組む禁煙対策の大切さ」をテーマに話し合った。

製鉄記念室蘭病院・前田征洋病院長

めている。また、製鉄記念室蘭病院では、妊娠30週の助産師個別対面指導の中で、妊婦にたばこや受動喫煙の危険性を説明。分娩時・退院時にも助産師指導を行っている。行政は、公共施設の施設内禁煙の実施、妊娠届け出時(母子手帳交付時)の個別面接を熱心に行っている。

この地域では、行政と医療機関による具体的な対策を行っており、小中学生のがん教育も進んでいる。ただ、父親の喫煙率改善に向けて、母親との同時指導の徹底も必要。美唄に倣って、受動喫煙防止条例が必要では。「室蘭がんフォーラム」などを通じて機運を高めたい。

(構成・松岡秀宜)



「行政と医療機関の連携による取り組み」について解説する前田病院院長(右)